

靉嘔 ふたたび虹のかなたに

Ay-O: Over the Rainbow Once More

2012年2月4日（土）－5月6日（日）

February 4 (sat) – May 6 (sun), 2012

プレスリリース | Press Release 2011 December



靉嘔《マイ・いくぐに・フレンズ》2011年 / Ay-O, *My 192 Friends*, 2011

開催概要

生命力溢れる戻畠の世界。その初期から新作までを網羅する回顧展を開催します。

1931年、茨城県に生まれた戻畠は、1950年代、池田満寿夫らと共にデモクラート美術家協会に参加し、明るい色彩の油彩画を発表し注目されました。1958年には、ニューヨークに渡り、知覚によって認識される世界を具体的な物との対話によって改めて捉えようとする中で、箱の穴に指を入れ鑑賞する《フィンガー・ボックス》や、周囲の環境を取り込んだインсталレーション等、絵画の枠にとどまらない人間の五感に訴える作品が生まれます。日常の事物や行為そのものがアートに変換された1960年代、戻畠の「エンヴァイラメント」と呼ばれるインсталレーションは先駆的な表現として注目されました。音楽家、詩人、美術家等ジャンルを超えたアーティスト達が交わり、パフォーマンスや印刷物の製作等を通して、今日のアートの多様性のあり方に一つの礎を築いたグループ、「フルクサス」のメンバーとしてオノ・ヨーコやナム・ジュン・パイクらと共に活動します。やがて、線で描く絵画を拒否し、引用したモチーフに赤から紫までの可視光線(スペクトル)を重ねる「虹」の作品が生まれ、ヴェニス・ビエンナーレ(1966年)での発表等を経て、戻畠は「虹のアーティスト」として国内外で知られるようになります。戻畠の虹との格闘は、版画、絵画、インсталレーションと様々な形式により、現在まで続いています。

本展では、数多くの虹のシリーズやパフォーマンスのドキュメントの他、触れて楽しむ体験型のインсталレーションや192色の虹色で描かれた30mにおよぶ新作、1987年にエッフェル塔にかけられた300mの虹の帶等を大規模に展示します。展示室いっぱいに広がる戻畠のオptyimisticな世界をお楽しみください。

同時開催の企画展は田中敦子展。戻畠と田中はそれぞれ「フルクサス」と「具体」と異なるグループに属しながらも、パフォーマンスやインсталレーションを含めた多様な表現方法を展開した同時代の前衛アーティストです。

MOTコレクション展では、戻畠と同じ「フルクサス」のメンバーとして関わりのある塩見允枝子の収蔵作品を初公開します。

今期は東京都現代美術館全体で、1950年代以降の美術の動向を様々な角度からご覧いただけます。

本展の見どころ・作品紹介

前へ進む力。

田園（1956年）（①）

1950年代の作品としては、際立って明るい色彩で描かれた《田園》。力強い生命力に溢れる靄嵐の初期を代表する作品です。ここには、現実と乖離した高尚なアートではなく、生活に根ざしたアートを目指す靄嵐の精神が貫かれていています。大地を踏みしめ前へ進む人々の描かれた画面には、「食う為生きる為に耕す父母兄弟姉妹におくる」というメッセージが記されています。

虹をかける。

アダムとイヴ（1967-71年）（③）

「虹のアーティスト」として知られる靄嵐。靄嵐にとっての虹は、光や自然現象そのものを表そうとしたものではありません。自ら新しい輪郭線で形を描くことを拒否し、「色」を追究することにした靄嵐が、すべての色を用いるため、光のスペクトルの順番を借り、「虹」と称したものです。靄嵐は、ポピュラーなイメージをモチーフとして引用し、固有の色を排除し、すべての色を赤から紫まで順に重ねていきます。本作は、すべての物事の原点として男女のペアをモチーフとした代表作です。

触って鑑賞するアート。

レインボー・エンヴィアイラメントNo.7 レインボー・タクティル・ルーム+レインボー・エイムズ・ボックス（1969年）（⑤）

3.6x3.6x2.4mの小屋状のインスタレーション。中を覆い尽くす虹色の正方形の一つひとつの中には穴が開いており、指を入れて異なる感触を楽しむことができます。鑑賞者を中心に招き入れ体感させるインタラクティブなインスタレーションとして、本作は先駆的なものです。この原型である穴を開いた箱状の《フィンガー・ボックス》は、マルティブル（大量生産の作品）を収めた「フルクサス・キット」（アッセイケースの中にアーティスト達のコンセプトが詰まった小さな作品が集められている）の中に入れられ、靄嵐の触覚の仕事として世界中に広りました。

継続する実験。

レインボー・レイン（1977年）（⑥）

靄嵐は常に新しい方法に挑戦します。虹と言ったとしても、その追究は様々です。本作では明度の異なる虹を描いた絵の具が自然に垂れ、虹の雨を作っています。

アトリウムを飾る巨大インスタレーション。

「300m レインボー・エッフェル塔・プロジェクト」エッフェル塔（パリ）（1987年）（②）

エッフェル塔に虹をかけられたら、どんなに綺麗だろう...。そんな靄嵐の夢は現実になりました。1987年6月19日から2日間、300mの虹の帯がエッフェル塔のてっぺんから地面まで斜めに取り付けられ、はためきました。本展では、この帯が「虹の滝」としてアトリウム（地下2階展示室中心の吹き抜け）を飾る予定です。

身の回りの物との対話。

ハンギング・ピース No.10 オブジェクト・マンダラ（1997年）（④）

靄嵐は、世界各地で様々な物をぶら下げてきました。エッフェル塔での虹の帯もそうですし、9.11以前のニューヨークで世界貿易センターのツインビルの間に洗濯物を下げたこともあります。室内では、天井から曼荼羅のようにグリット状に簫や椅子、かご等、靄嵐の身の回りにある物をたくさん下げてきました。このたびは、アトリウムにて「虹の滝」の周囲に192個の物（オブジェクト）を吊り下げます。身の回りの具体的に存在するイメージや物との対話の中で作品を生み出してきた靄嵐の様々な試みのうちの一つが、この「オブジェクト・マンダラ」です。

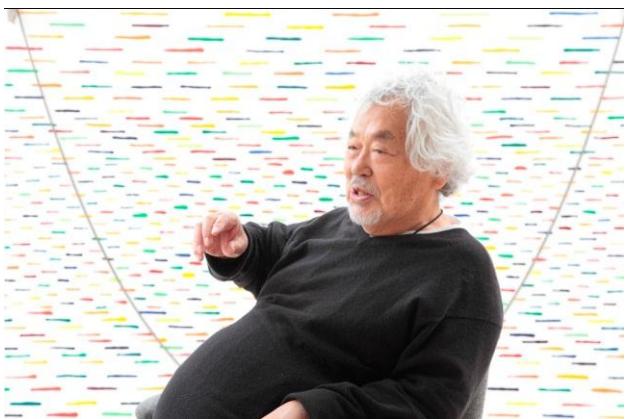
80歳の靄嵐の新作。

マイ・いぐくに・フレンズ（2011年）（表紙）

色とりどりの模様。その数は192個。じつはすべての色が異なっています。靄嵐は虹のグラデーションを24色から最大192色まで分解しました。麻雀の点数の数え方になぞらえ、靄嵐はそれを「にいよん」（24色）「くんろく」（96色）「いぐくに」（192色）と呼んでいます。本展のための新作では、キャンバスを水平に置き、ランダムに192色の絵の具を流しています。靄嵐はこれを人物に見立て、それぞれに自身の友人達の名前を記しました。フルクサスのメンバーや批評家等、同時代のアートシーンを彩る人々の名が並びます。他に30mの大作を含め、計13点の2010-11年の新作をご覧いただけます。

作家略歴

靉嘔(あいおう)



《天王崎D:カヘリナンイザ あるいは衡(こう) または逆さ虹》
(2011年)の前の靉嘔 Photo: Ichiro Otani

- 1931 茨城県に生まれる
- 1953 「デモクラート美術家協会」に参加
- 1954 東京教育大学教育学部芸術学科卒業
- 1955 第1回個展(タケミヤ画廊)
- 1958 ニューヨークに渡る(2006年までニューヨークを拠点に制作)
- 1962頃より 「フルクサス」グループに参加
- 1962 アメリカにおける第1回個展(ゴードンズ・フィフスアベニュー・ギャラリー、ニューヨーク)
- 1964 『フィンガー・ボックス』等、触覚の作品を制作。
「レインボー・エンヴァイラメントNo.1 レインボー・ルーム(スマーリン・ギャラリー、
ニューヨーク)にて、最初の「虹」による体験型のインсталレーションを発表。
- 1966 ヴェニス・ビエンナーレ日本代表
- 1970 「レインボー・エンヴァイラメントNo.7 タクタイル・レインボー・ルーム」
(EXPO'70、大阪)
- 1971 サンパウロ・ビエンナーレ日本代表(ブラジル銀行賞受賞)
- 1977 「レインボー・エンヴァイラメントNo.11 レインボー・ランドリー」
(世界貿易センタービル、ニューヨーク)
- 1987 「25m 虹のイヴェント」(永平寺、福井)
「300m レインボー・エッフェルタワー・プロジェクト」(エッフェル塔、パリ)
- 1990年代 「In the Spirit of Fluxus」(1993、ウォーカーアートセンター等巡回)ほか、
フルクサスに関連する多くの展覧会に参加。
- 1994 「Some Hanging Pieces No.9 Object Mandala」(カッセラー・クンストフェライン、
カッセル)
- 2006 「虹のかなたに 靉嘔AY-O回顧 1950-2006」(福井県立美術館、宮崎県立美術館)
- 2010 「靉嘔 1950s-2010」(茨城県つくば美術館)

展覧会情報

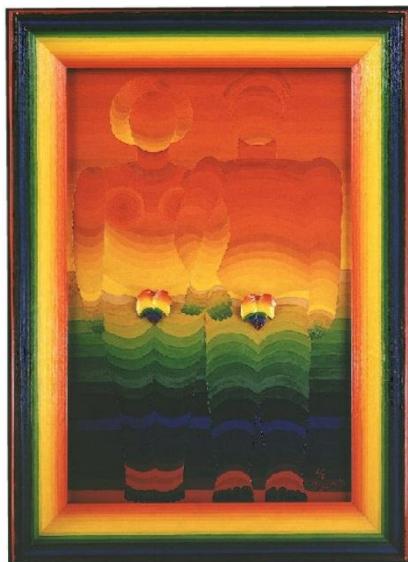
展覧会タイトル:	靉嘔 ふたたび虹のかなたに
会場:	東京都現代美術館 1F, B2F
会期:	2012年2月4日(土)～5月6日(日)
休館日:	月曜日(4月30日は開館)、5月1日
開館時間:	10:00～18:00(入場は閉館の30分前まで)
主催:	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館、 読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛:	ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、 日本テレビ放送網
後援:	アメリカ合衆国大使館
担当学芸員:	東京都現代美術館 西川 美穂子
観覧料:	一般1,100円(880円) 大学生・65歳以上850円(680円) 中高生550円(440円) 小学生以下無料 ※()内は20名様以上の団体料金 ※本展チケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます。 ※同時開催「田中敦子 アート・オブ・コネクティング」とのセット券: 一般1,500円 学生・65歳以上1,200円 中高生700円
同時開催:	「田中敦子 アート・オブ・コネクティング」2月4日～5月6日 戦後日本の前衛芸術グループ・具体美術協会を代表する女性アーティストの 東京で初めての大規模回顧展。
	「特集展示 福島秀子」 「MOTコレクション クロニクル 1964- OFF MUSEUM」 2月4日～5月6日 多様な技法と材料で色彩豊かな作品を製作した福島秀子の特集展示と、 1960年代後半から顕著にみられる、美術館の外で展開された芸術活動を紹介。
	「ブルームバーグ・パヴィリオン・プロジェクト」 一年間にわたって東京在住の若手アーティストの個展や公募展、パフォーマンス・ イベントを開催するプロジェクト。 Qosmo/テクノ手芸部 2月4日～3月4日 小林史子 3月24～4月22日 カンパニー・デラシネラ・パフォーマンス 5月6日 17:00-18:00
展覧会カタログ:	2012年4月中旬発売予定 靉嘔による書きおろしと過去の著作掲載(日英バイリンガル)
関連プログラム:	2012年3月下旬 靉嘔によるパフォーマンスのイベントを開催予定 ※詳細は決まり次第東京都現代美術館ホームページにてご案内いたします。
お問合せ:	東京都現代美術館 〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 Tel. 03-5245-4111 / www.mot-art-museum.jp
巡回予定:	新潟市美術館 2012年7月28日～10月8日 広島市現代美術館 2012年11月3日～2013年1月14日

広報用画像

広報用として表紙の画像《My いくぐに Friends》のほか、下記6点がございます。
掲載ご希望の方はお手数ですが別紙にご記入の上、FAXもしくはメールにてご連絡ください。



① 銀塙《田園》1956年 東京都現代美術館蔵
Ay-O, *Pastoral*, 1956,
Collection of Museum of Contemporary Art Tokyo



③ 銀塙《アダムとイヴ》1967-71年 東京都現代美術館蔵
Ay-O, *Adam and Eve*, 1967-71, Collection of
Museum of Contemporary Art Tokyo



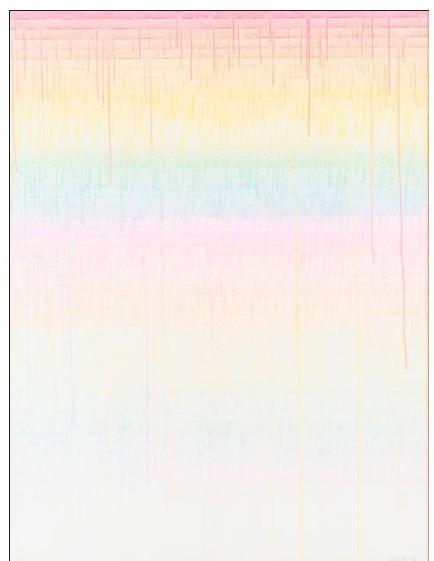
⑤ 銀塙《レインボー・エンヴィラメントNo.7 レインボー・タクティル・ルーム+レインボー・エイムズ・ボックス》1969年
Ay-O, *Rainbow Environment No. 7: Tactile Rainbow Room + Rainbow Ames Box*, 1969



② 銀塙「300m レインボー・エッフェル塔・プロジェクト」
エッフェル塔(パリ)1987年 撮影:水谷内健次
Ay-O, *300 meter Rainbow Eiffel Tower Project*,
Paris, 1987 Photo: Kenji Mizuyachi



④ 銀塙《ハンギング・ピース No.10 オブジェクト・マンダラ》
北九州市立美術館での展示風景 (1997年)
Ay-O, *Hanging Pieces No. 10 Object Mandala*, Installation
view at Kitakyusyu Municipal Museum of Art, 1997



⑥ 銀塙《レインボー・レイン》1977年
Ay-O, *Rainbow Rain*, 1977

広報用画像申込書

東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班宛

FAX. 03-5245-1141

本展覧会広報用素材として、表紙を含め作品画像7点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ファックス又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。
また読者様・視聴者様へのプレゼント用招待券もご手配可能ですので、ご希望の場合はお申し付けください。

媒体名: 『

』

○印をおつけください

種 別: TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーぺーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日:

御社名:

ご担当者名:

Eメールアドレス:

@

(〒 -)

ご住所:

お電話番号:

FAX:

図版番号: ご希望の図版番号に✓をおつけください。

- 表紙画像 銀塙 《マイ・いぐに・フレンズ》 2011年
- ① 銀塙 《田園》 1956年 東京都現代美術館蔵
- ② 銀塙 「300m レインボー・エッフェル塔・プロジェクト」 エッフェル塔(パリ) 1987年
撮影: 水谷内健次
- ③ 銀塙 《アダムとイヴ》 1967-71年 東京都現代美術館蔵
- ④ 銀塙 《ハンギング・ピース No.10 オブジェクト・マンダラ》
北九州市立美術館での展示風景(1997年)
- ⑤ 銀塙 《レインボー・エンヴァイラメントNo.7 レインボー・タクティル・ルーム+
レインボー・エイムズ・ボックス》 1969年
- ⑥ 銀塙 《レインボー・レイン》 1977年

読者様プレゼント用招待券をご希望の場合は✓をおつけください。 10名様 / 20名様

広報お問い合わせ先: 東京都現代美術館 事業企画課企画係 広報班

吉川 m-yoshikawa@mot-art.jp / 野口 r-noguchi@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141